令和８年度　函館大学　一般選抜Ａ日程　試験問題

『国　語』

※　解答はすべて解答用紙に記入すること。

【１】次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

（前省略）

そもそもポピュリズムとは何なのだろうか。ポピュリズムについては、大まかに分けて、これまで二種類の定義が使われてきた。

第一の定義は、固定的な支持基盤を超え、幅広く国民に直接訴える政治スタイルをポピュリズムととらえる定義である。たとえば大嶽秀夫は、ポピュリズムを政治指導者による「政党や議会を迂回して、有権者に直接訴えかける手法」としている。また吉田徹は、「国民に訴えるレトリックを駆使して変革を追い求めるカリスマ的な政治スタイル」をポピュリズムとする。そしてポピュリズム政治家とは、それまでの政治スタイルに変化をもたらし、斬新な政治手法を採用することで、国民に幅広くアピールすることに成功した指導者たちを指すという。吉田がそのようなポピュリズムの主な例として挙げ、分析するのは、日本の中曽根政権、イギリスのサッチャー政権、イタリアのベルルスコーニ政権などである。

なお日本では、新聞をはじめとするジャーナリズムにおいても、ポピュリズムをこのような「指導者が大衆に直接訴える政治」の意味に用いることが多い。

第二の定義は、「人民」の立場から既存政治やエリートを批判する政治運動をポピュリズムととらえる定義である。すなわちポピュリズムとは、政治改革を目指す勢力が、既存の権力構造やエリート層（および社会の支配的な価値観）を批判し、①「人民」に訴えてその主張の実現を目指す運動とされる。ここではエリートや「特権層」と、「人民」（あるいは「民衆」「市民」）の二項対立が想定される。そして変革を目指す勢力が「人民」を「善」とする一方、エリートは人民をないがしろにする遠い存在、「悪」として描かれる。ここで主に例として挙げられるのは、フランスの国民戦線、オーストリアの自由党をはじめとする、いわゆるポピュリズム政党である。近年の政治学では、この定義をとる立場が多いように見受けられる。

この点で、フランスの思想家、ツヴェタン・トドロフの指摘は興味深い。彼によれば、ポピュリズムとは伝統的な右派や左派に分類できるものではなく、むしろ「下」に属する運動である。既成政党は②右も左もひっくるめて「上」の存在であり、「上」のエリートたちを下から批判するのがポピュリズムだ、というのである。

以上を踏まえたうえで本書では、後者の定義、すなわち、「エリートと人民」の対比を軸とする、政治運動としてのポピュリズムの定義をａ　トることとしたい。

それでは、ポピュリズムはデモクラシーの発展に寄与するといえるのか。ミュデとカルトワッセルは、ポピュリズムはデモクラシーの発展を促す方向で働くこともあれば、デモクラシーへの脅威として作用することもある、と論じている。

まず、デモクラシーの発展を促進する面について見てみよう。第一に、ポピュリズムは、政治から排除されてきたｂ　シュウエン的な集団の政治参加を促進することで、デモクラシーの発展に寄与する。ラテンアメリカで見られたように、権威主義的な統治エリートの支配に対抗し、民衆の参加を促し、自由かつ公正な選挙を実現するうえで、ポピュリズムの果た

した役割は大きい。また、デモクラシーを実現した諸国においても、エリートによってないがしろにされていると感じる人々の意思を、政治的に表出する機会を与えることができる。「サイレント・マジョリティ」に政治参加の機会を提供することができるのは、c　オウオウにしてポピュリズムなのである。

第二に、ポピュリズムは、既存の社会的な区別を越えた新しい政治的・社会的なまとまりを作り出すとともに、新たなイデオロギーを提供することができる。すなわち、農民や労働者といった個別の社会集団の枠を越え、人民というまとまりを持った集合を生み出し、その人々の拠って立つイデオロギーを与えるのである。それにより、政党システムをはじめとする大きな変動が呼び起こされ、政治的な革新が可能となるという。

しかし他方、ポピュリズムがデモクラシーへの脅威として作用することもある。第一に、ポピュリズムは、「人民」の意思を尊重する一方、権力分立、抑制と均衡といった立憲主義の原則を軽視する傾向がある。立憲主義において重要な手続きや制度は、人民の意思の実現を阻害するものとして批判される。特にそこで問題となるのは、多数派原則を重視するあまり、弱者やマイノリティの権利が無視されることである。

第二に、ポピュリズムには敵と味方を峻別する発想が強いことから、政治的な対立や紛争が急進化する危険がある。ポピュリズム対アンチ・ポピュリズムといった新たな亀裂が生まれたり、絶えざる政治闘争のなかで、妥協や合意が困難となるおそれがある。

第三に、ポピュリズムは人民の意思の発露、特に投票によって一挙に決することを重視するあまり、政党や議会といった団体・制度や、司法機関などの非政治的機関の権限を制約し、③「良き統治」を妨げる危険がある。

このようにポピュリズムは、人々の参加と包摂を促す一方、権限の集中を図ることで、制度や手続きを軽視し、少数派にd　ヨクアツ的に作用する可能性がある。ポピュリズムとデモクラシーの関係は、両義的といわざるをえない。では、どのような場合にポピュリズムがデモクラシーの発展に寄与し、どのような場合にデモクラシーに脅威として作用するのだろうか。ミュデとカルトワッセルが注目するのが、ポピュリズム政党の置かれた文脈である。具体的には、1)ポピュリズム政党の出現した国において、デモクラシーが固定化しているのか、それとも固定化していないのか、そして 2)ポピュリズム政党が与党として政権を握るのか、野党として批判勢力にとどまるのか、という二つの条件によって、ポピュリズム政党がデモクラシーの質に与える影響が大きく変わるという。

まず、野党としてのポピュリズム政党の存在は、排除されてきた社会集団の参加を促し、かつ既成政党に緊張感を与えることで、デモクラシーの質を高める方向に作用する。特に、④安定したデモクラシーにおいては、ポピュリズム政党の出現はデモクラシーを活性化させる効果があるという。

他方、ポピュリズム政党が政権を獲得した場合、特にそれが安定的なデモクラシーを実現していない国の場合には、ポピュリズム政党はデモクラシーに対する脅威として立ち現れる。立憲主義を否定して権威主義的統治を断行することで、むしろデモクラシーの質を貶める危険があるという。その典型例が、クーデターにより憲法を停止したペルーのフジモリ政

権である。特にラテンアメリカの場合には、多様な階層を背景とする包摂的な運動である一方、政権を獲得した暁には「民衆の意思」を背景に、権力をｅ　ヒンパンに濫用する危険があり、デモクラシーの妨げとなる、というのである。なお、デモクラシーが定着した国の場合には、ポピュリズム政党が与党となった場合でも、デモクラシーそのものが危機に陥るとはいえないとされている。

（出典：水島治郎『ポピュリズムとは何か』中公新書。なお、出題の都合上一部表記を改め、文章を省略したところがある。）

問１　文章全体から推測されるポピュリズムの日本語訳として最もふさわしいものを選択肢より選びなさい。

１．エリート主義
２．全体主義
３．排外主義
４．保守主義
５．大衆（迎合）主義

問２　①「人民」に訴えてその主張の実現を目指す運動とあるが、この「人民」の定義から排除される人たちは誰か。ポピュリズムにおいて、その人たちが排除される理由とともに、１００字以内で答えなさい。

問３　②右も左もひっくるめて「上」の存在であり、「上」のエリートたちを下から批判するのがポピュリズムだとあるが、ここでの「右」「左」「上」「下」は、何の位置関係を示したものなのか。本文中から該当する言葉を抜き出して答えなさい。

問４　③「良き統治」とあるが、筆者の考えに従うとこれは何によってもたらされるものなのか。本文中から該当する言葉を抜き出して答えなさい。

問５　④安定したデモクラシーにおいては、ポピュリズム政党の出現はデモクラシーを活性化させるのはなぜか。１００字以内で答えなさい。

問６　ポピュリズム（Populism）の語源はラテン語にあるが、それと最も深く関連する英語を選択肢より選びなさい。

１．Party
２．People
３．Policy
４．Parliament
５．Politician

問７　下線部分 a～e のカタカナを漢字に直しなさい。

【２】下の［大学生の会話］を読んで、若者が地方から東京などの大都市に流出する問題についてのあなたの考えを、ヒカル、ユキ、ショウの 3 人のうちの誰の意見に近いかを示したうえで、200 字以上で述べてください。なお、解答の文体は、［大学生の会話］と同じような文体で構いません。

［大学生の会話］

ヒカル：前回は、地方の厳しい状況について、『地方消滅』というタイトルの文献を学習したね。そこでは、日本全体で少子化が進む中で、地方からは、東京など大都市への若者の流出が進み、その結果、地方ではより早く人口が減り、人が住まなくなるとその地域は消滅する、と主張されていた。だから、「地方消滅」の反対側には、東京への一極集中がある。

ユキ　：うん。『地方消滅』というタイトルが衝撃的だったけど、本当に、地方は厳しい状況にあることがわかった。

ヒカル：それで、今日は、地方から若者が東京などの大都市に流出する問題に対してどのような政策をとるべきか、それぞれの考えを発表することになっていたね。

ショウ：うん。では、僕から発表しよう。ユキもヒカルも同じように考えたと思うんだけれど、若者が地方を出て東京に行くという状況を止めるには、若者が何故東京に行くのか、その原因を明らかにして、それをふまえて政策を考える必要があると思うんだ。

ユキ・ヒカル：うん。

ショウ：そこで、見て欲しいのが［資料 1］だ。これは、地方から東京に転入した 20 代・30 代の男女が、どのような転入理由をあげたかを示している。「進学先」に関する理由が、3 つあるけれど、進学で東京に行くのはやむを得ないし、一度出ても地方に戻ってくればいいのだから、僕は、「進学先」以外の理由に注目したい。

ユキ・ヒカル：うん。それで。

ショウ：男女ともが高い比率であげた理由は、「東京圏へのあこがれや良いイメージがある」、「やりがいがある、または、技能、資格、専門性を活かせる就職先の存在（質）」、「生活利便性、生活環境、安心・安全の良さ」、「余暇・文化を楽しむ場所・機会の充実」の四つだ。この四つに地方は対抗すべきだと思う。

ユキ　：どうやって対抗するの。

ショウ：まず、「東京圏へのあこがれや良いイメージ」は確かにあると思うけれど、地方には地方の良さがあると思う。だから、地方の関係者、自治体などが、もっと若者にアピールして、地方の良いイメージを作っていけると思う。地方の方が、自然が豊かで、物価も安い。犯罪も少ないと思う。だから、「生活環境」や「安心・安全の良さ」は地方の方が勝っているよ。それに、「余暇の楽しみ」は、自然を活かしてできるし、「文化の楽しみ」も、お祭りや伝統行事、食文化とか魅力的なものが沢山ある。

ヒカル：「やりがいがある、または、技能、資格、専門性を活かせる就職先の存在（質）」についてはどう対抗する。

ショウ：そういう就職先は、地方にもあると思う。授業で学んだが、地方にも、高い技術力を持って特定の商品分野で高いシェアを持つ企業がある。僕たちの地元にもある。僕もそうだったけれど、地方の若者は、地元にどのような就職先、企業があるのか、知らないと思うんだ。知っている企業は、どうしても東京などの大企業が多い。だから、就職先についても、企業自身はもちろん、自治体や大学が、地元にどういう企業があって、どういうやりがいのある仕事があるのか、若者に伝えるべきだと思う。次回の学習会では、僕たちの地元の企業について調査してくるよ。

ヒカル：わかった。ショウの来週の発表、期待大だよ。

ユキ　：次は私ね。私は［資料 2］に注目して考えたことを発表するわ。この資料は、地方から東京圏に転入した 20 歳代・30 歳代の男女が、地元の就職先を選ばなかった理由を示している。

ショウ：僕の出した資料は、東京圏に転入した若者が東京を選んだ理由。これは、逆に、そうした若者が、地元の就職先を選ばなかった理由なんだね。面白い。

ユキ　：それで、この資料で、私が注目したいのは、女性の回答で、「東京圏で暮らしたかった」、「地元や親元を離れたかった」、「買い物や交通などの日常生活が不便だから」、「プライベートに干渉されそうだから」が、男性よりもかなり比率が高いこと。これは、若い女性が、地方を、仕事以外のところで敬遠しているということを示していると思う。もちろん、「東京圏で仕事をしたかった」が最も比率は高いんだけど、女性の場合は、仕事以外のところでも地元を選んでいないことを重視すべきだと思う。

ショウ：「仕事以外のところ」って言ったけれど、具体的にそれは何かな。「買い物や交通の不便さ」はわかるけれど、「親元を離れたい」とか、「プライベードに干渉されそう」とか、一体どういうことだろう。

ユキ　：そこなのよ、問題は。これは、仮説だけれど、地方の方が、親や周りの人に、女性はこうするべき、という昔からの考えが根強いように思う。例えば、「女性は早く結婚して、子どもを産むべき」というような考え方ね。企業も、女性が仕事を続けながら家庭と両立させられるようなところは少ないのじゃないかな。これらについては、次回裏付けとなるデータを探してくるわ。それで、対策としては、地方の自治体が、女性の多様な生き方を認めるような啓発活動を学校や地域で行うこと、それから、企業が女性に評価される職場づくりを進めることも必要だと思う。

ショウ・ヒカル：なるほど。

ユキ　：それで、最後に、言いたいのは、私が、この問題を重視するのは、若者の地方流出でも、特に対策が必要なのは女性の流出だからだということ。何故なら、女性が地方から出てしまうことは、地方で生まれる子どもの数の減少につながって、地方の人口減少を加速させてしまうでしょ。

ショウ：なるほど。さあ、最後はヒカルだね。

ヒカル：実は、僕も、ショウが出した［資料 1］について考えたんだ。それで、［資料 1］で、僕が重要だと思うのは、ショウが指摘した、「やりがいがある、または、技能、資格、専門性を活かせる就職先の存在（質）」の他に、「待遇の良い、または、知名度の高い就職先の存在（質）」、「就職先の選択肢の豊富さ（数）」、「ビジネスのチャンスをつかめる環境」の 3 つの比率も決して低くないことだ。要するに、若者が東京を選ぶ理由には明らかに就職・仕事の魅力があるということだよ。

ショウ・ユキ：うん。それで。

ヒカル：それで、そのことは、逆に言えば、地方にも魅力的な就職・仕事があれば、若者は流出しない、むしろ、流入してくるということだ。そして、そのことを示す事例もある。

ショウ：どういう事例？

ヒカル：一つあげると熊本県の菊陽町だ。菊陽町の『第 7 期菊陽町総合計画 基本構想／前期基本計画』によると、「半導体企業の進出や、関連企業の集積など、町内外の環境の大きな変化に伴い、菊陽町の人口増加は、2045（令和 27）年をピークに約 49,000 人まで増加を続け」るとある。菊陽町の人口は、2010 年 37,734 人、2020 年 43,337 人だ。

ユキ　：私もニュースで見たことがある。昨年、世界的な半導体製造企業の工場ができたことで、若者も含めて人がたくさん流入しているのよね。

ヒカル：そうだ。工場は 1000 人単位の従業員が働く大きさだ。地方でも、魅力ある就職・仕事ができれば、若者は流出しないんだよ。逆に言えば、若者が流出している地方には、やはり魅力的な就職・仕事がないということだと思う。「東京圏へのあこがれや良いイメージがある」だけが流出の理由じゃない。

ショウ：それで、ヒカルは、地方はどうすればいいと思っているの。大きな企業の工場などを誘致することを提案しているの。でも、誘致すれば来てくれるというものでもないんじゃないかな。

ヒカル：僕も、企業誘致は簡単なことではないと思う。誘致できる地方はいいけれど、問題は誘致できない地方だよ。そういう地方では、地方の地元の企業が、仕事のやりがいや待遇面で、東京の企業に負けないくらい若者にとって魅力的な企業になるしかない。でも、それはできるだろうか。僕は難しいと思う。結論的に、そうした地方では、若者が魅力的な就職・仕事を求めて地方から流出するのは仕方が無いんだと思う。

ユキ　：ちょっと待って。若者の流出は仕方無いって･･･それだと、過疎が一層進んで、厳しい状態になるところがどんどん出てくる。それこそ「地方消滅」になるわ。

ヒカル：やむを得ないよ。だから、そこで、対策として必要なのは、後ろ向きかもしれないけれど、そういう厳しい状態に合わせた政策を政府がとることだ。自治体の合併や過疎地の人々の移住支援とかが重要だと思う。

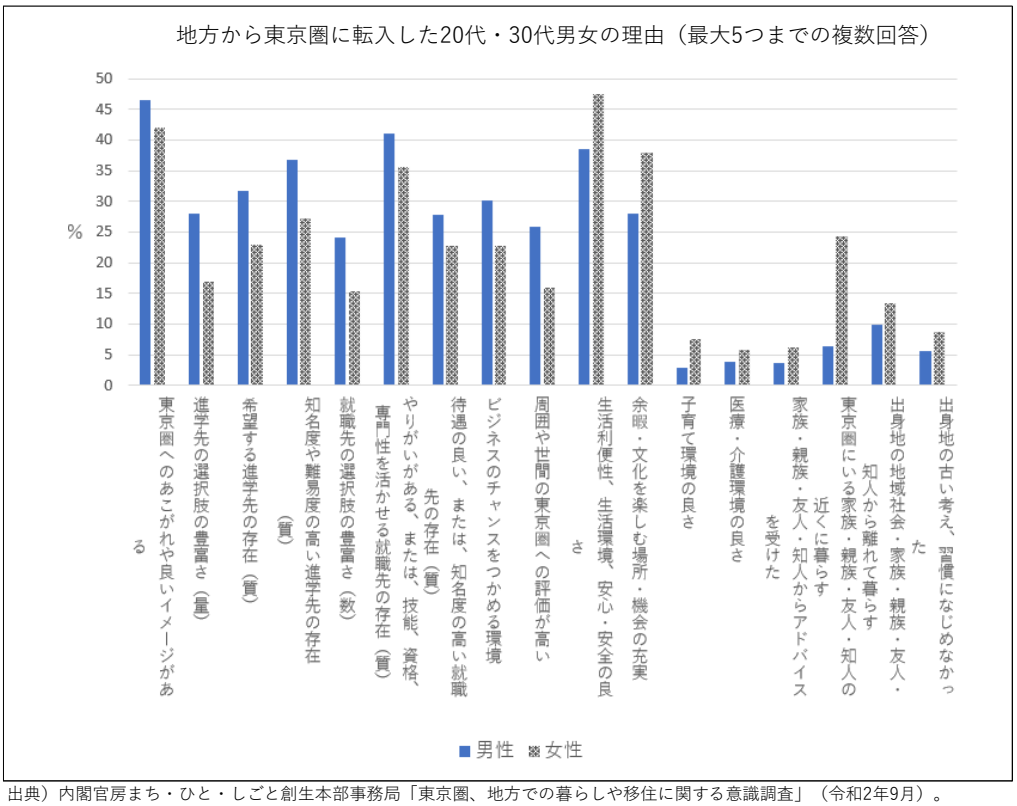
ユキ　：地方企業が、東京の企業に負けないくらい魅力的な企業になるのは難しいか。待って。地方企業を、そういう魅力的な企業にするために何かできることはないの。

ショウ：それは、僕も重要な論点だと思うよ。現に、地方にも魅力的な企業はあるんだし。

ヒカル：うん。それについては来週もう一回考えてくるよ。さて、今日の学習会は、各自の課題がそれぞれ明らかになった学習会だったと思う。次回も頑張ろう。

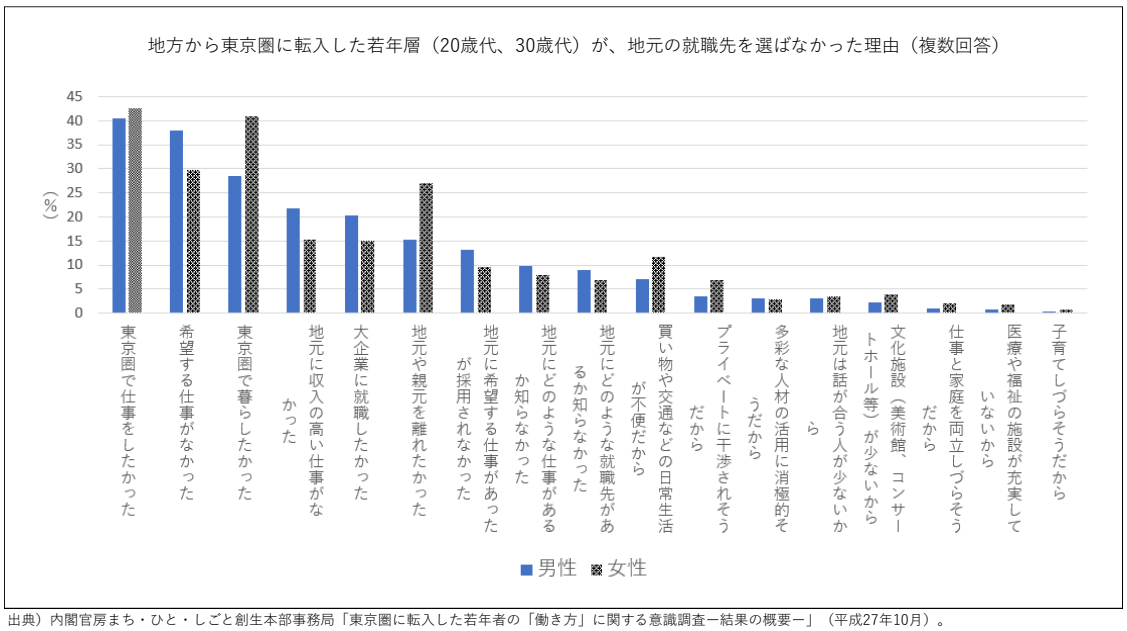
ユキ・ショウ：うん、頑張ろう。

［資料 1］



出典）内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局「東京圏、地方での暮らしや移住に関する意識調査」（令和2年9月）。
注）アンケート調査の回収結果は、20代・30代男性532人、20代・30代女性536人。

［資料 2］



出典）内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局「東京圏に転入した若年者の「働き方」に関する意識調査ー結果の概要ー」（平成27年10月）。
注）「その他」と、「最初は1都3県（東京、埼玉、千葉、神奈川）以外の就職先を選んだ（その後の事情により1都3県に転居」は省略した。アンケート調査の回収結果は、20代・30代男性1,241人、20代・30代女性1,212人。